

自分から感染を 広げないために

健康増進センター ☎ 049-252-3771



新型コロナウイルスの感染者の急増による医療機関の逼迫で、全国で救急車が到着しても搬送先の病院が決まらない「救急搬送困難事案」が増えています。富士見市、ふじみ野市、三芳町を管轄する入間東部地区事務組合でも搬送先の選定に時間がかかり、救急隊の現場滞在時間が延長しています。

"災害レベルで広がる感染" という非常事態を乗り越えるために

新型コロナウイルスの感染者数の増加に伴い、県内医療機関は9月7日時点で、確保病床使用率69.7%、重症者用病床使用率60.6%と高い使用率となり、医療機関への負担が大きくなっています。

県では医療機関と連携して病床数の確保を行い、日々病床数は増えています。その一方で、新型コロナウイルス感染症以外の病気への医療を縮小するなどの影響を与える可能性があります。

	確保病床使用率	重症者用病床使用率
ステージⅣ指標	50%以上	50%以上
9月7日現在	69.7%	60.6%

※ステージ指標は政府の「新型コロナウイルス感染症対策分科会」により示された感染状況の指標で、ステージⅣは**爆発的感染拡大段階（爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避けるための対応が必要な段階）**とされています。

変異株(デルタ株)の影響を受けて

国立感染症研究所の解析(8月23日現在)によると、1都3県では、感染者のおよそ99%がデルタ株の感染と推定されています。デルタ株は従来の株よりも感染力が強く、誰もが重症化する可能性が高いウイルスです。重症化しにくいとされる若い年代の方々も、注意が必要です。

多様化するクラスターと感染事例

バーベキューなどの野外での飲食をはじめ、百貨店、喫煙所、休憩室、更衣室、理美容店など、これまで確認されていなかったさまざまな場所でのクラスターが全国で発生しています。

また、その多くはマスクを外し、飲食や会話をしていたことがわかっています。



バーベキューをしながら、マスクを外し飲食や会話



友人宅で、マスクを外して飲食や会話



長距離ドライブ中に、マスクを外して飲食や会話

広がる家庭内感染

現在、県内での感染経路の多くは家庭内感染で、1人の感染から家族全員に感染が広がるケースが多く確認されています。家族を守るためには、まずは家庭内にウイルスを持ち込まないようにすることが大切です。

新たな変異株の発生を防ぐために

新型コロナウイルスの感染が流行している限り、新たな変異株の発生は続きます。ウイルスは変異を繰り返すことで感染力が強くなることから、いち早く感染の拡大を抑えることが、新たな変異株の発生の抑制につながります。そのためには、現在感染が多く確認されている若い世代の方々ワクチンを接種することが重要です。



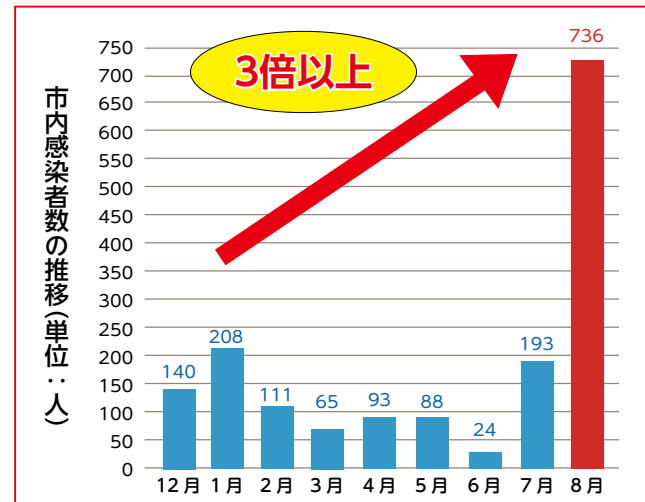
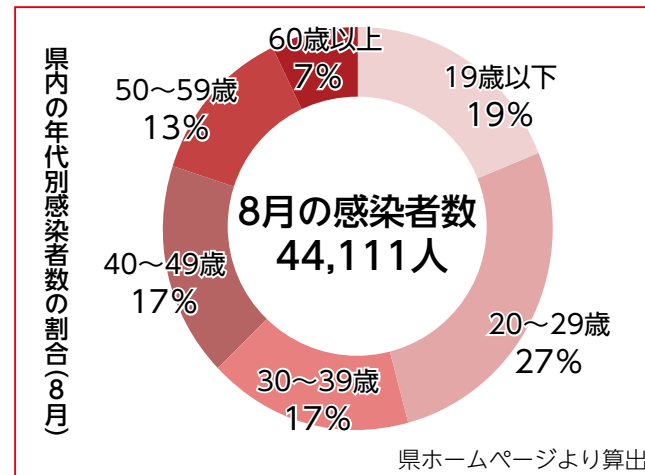
若い人は感染しても軽症で済むことが多いと聞きましたが、軽症だとどんな症状が出るのでしょうか。

「軽症」の範囲は広く、風邪のような症状の場合も、38度を超える高熱が出て、2週間咳が続いている場合も軽症に分類されます。呼吸困難や肺炎の症状が出てくると「中等症」に移行します。

また、回復後も嗅覚・味覚障がい、疲労感、記憶障がいなどの後遺症に苦しむ可能性があります。

新着・更新情報(9月7日現在)

- 9月は、9月7日までで累計94人の感染が確認されています。
- 新型コロナワクチン(ファイザー社製)は9月13日~26日に18,720回分が供給され、その後も随時、国から供給される予定です。
- 健康増進センターの集団接種会場で武田/モデルナ社製ワクチンの接種を行います(1回目:9月19日・26日、2回目:10月17日・24日)。



注意
市内の感染者が急増しています

感染力が極めて強いデルタ株の流行を受け、市内の8月の感染者数は、1か月で736人と過去最多の人数が確認されました。この感染者数は、これまで最多を記録した1月の208人の3倍以上となっています。

デルタ株は、従来の株より感染力が強いだけでなく、重症化率、死亡率も高いと言われてきているため、今まで以上に感染しないよう、また感染を拡大させないよう注意する必要があります。

また、県内の感染者を年代別で見ると、20歳代の方が一番多い状況です。若い方は、感染しても無症状や軽症であることが多く、気が付かないうちに家族や周りの方に感染を広げている可能性もあります。

感染拡大を防ぐには、新しい生活様式を実践し、マスクの着用、手指の消毒、3密の回避などの基本的な感染防止対策の徹底と発症・重症化を防ぐ効果のあるワクチン接種が重要であるとされています。

新型コロナウイルスに感染した自宅療養者への支援

感染の拡大に伴い、軽症のため自宅で療養する方も増加しています。県や市では、配食サービスや自宅療養者相談窓口などの自宅療養者をサポートする事業を行っています。

自宅療養者への支援物資セットの配送(拡充)

従来のティッシュや除菌グッズなどの日用品に加え、ゼリー飲料、おかゆなどを詰め合わせて自宅玄関先へ置き配します(無料)。

健康増進センターにFAXまたは電話で

健康増進センター

☎049-252-3771 FAX049-255-3321



市独自支援



自宅療養者相談窓口

自宅療養となった市民の方の不安に寄り添い、その生活を支援するため、相談窓口を開設しました。

市の保健師が健康や生活に関する相談を受け付け、医療的な相談を含め、内容に応じて専門の支援機関につなぎます。

受付時間 午前8時30分～午後5時15分(土・日・祝を除く)

健康増進センター ☎049-252-3771



市独自支援

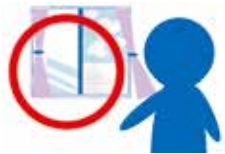
自宅療養中の注意事項



外出しない



飲酒・喫煙厳禁



こまめな換気



マスク・手洗い



ゴミは密閉して

コロナ差別・ワクチン接種に関する差別などはやめましょう

新型コロナウイルスには、誰もが感染者・濃厚接触者になる可能性があります。また、気が付かないうちに、人に感染させてしまうこともあります。

一人ひとりが感染対策を行いながら、誰かを責めることなく正しい知識と情報をもとに行動しましょう。

また、新型コロナワクチンの接種は強制ではなく、接種による感染症予防の効果と副反応のリスクを理解したうえで、自らの意志で接種を受けるものです。

職場や周りの方などへの接種の強制、未接種の方への差別的な扱いをしないようお願いします。

相談先 県民相談総合センター ☎048-830-7830 (月～金曜午前9時～正午、午後1時～5時)

※受付は午後4時30分まで

感染拡大を防ぐために、新型コロナワクチン接種の検討を

12歳以上の方の新型コロナワクチン(以下ワクチン)接種予約が始まっています。

ワクチンの有効性と副反応などを検討し、自分と周囲の方を守るためにも接種をご検討ください。体調などに不安がある方はかかりつけ医に事前にご相談ください。

ワクチンの有効性について

英国公衆衛生庁(PHE)によると、ワクチン(ファイザー社製)は新型コロナウイルスに対して約95%(デルタ株の場合は約88%)の発症予防効果があるなど高い有効性があります。

ワクチンの副反応が出たときは

ワクチンの副反応には、注射部位の痛み・腫れ、下痢、筋肉痛、関節痛、頭痛、疲労感、寒気、発熱などが確認されており、免疫力の強い低年齢ほど多く確認されています。

通常は数日以内に治まりますが、長引く場合や症状が重い場合は、専門の相談窓口にご相談ください。

埼玉県新型コロナウイルスワクチン接種の副反応専門相談窓口

☎0570-033-226 (24時間対応(土・日・祝を含む))

FAX048-830-4808 (聴覚に障がいのある方向け。回答までに時間がかかる場合があります)

ワクチン接種会場と予約方法

個別接種会場

市内29か所の医療機関でワクチン接種ができます。

予約方法

- Web予約 (24時間予約可能)
- IVR(自動音声応答)システム予約 (24時間予約可能)
予約専用: ☎050-3142-7989
- 電話予約 (8:30～17:00(土・日・祝を含む))
☎049-252-0777
049-252-0888

ふじみの救急病院

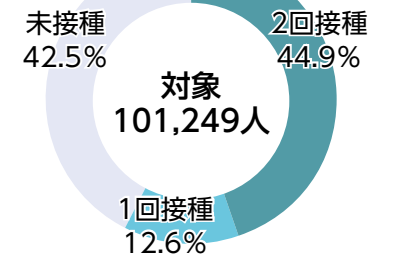
東入間医師会と連携し、ふじみの救急病院を会場としたワクチン接種を実施しています。

予約方法

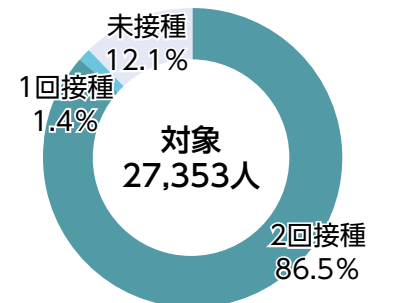
- Web予約 (24時間予約可能)
- 電話予約 (8:30～17:30(平日・祝日のみ))
☎049-238-4080

市内のワクチン接種状況(9月7日現在)

12歳以上の接種状況



65歳以上の接種状況



埼玉県ワクチン接種センター

10月から、エッセンシャルワーカー以外の方も県内4か所のワクチン接種センターでワクチン接種ができます。

※埼玉県西部ワクチン接種センターなどでは、9月30日(休)から武田/モデルナ社製ワクチンが接種できます。

予約方法

- Web予約 (24時間予約可能)



県内の若年層の新型コロナウイルスワクチン接種に関する意識等についての調査

県が県内の18～39歳の約1,800人を対象に8月に実施した調査では、70.3%が接種に前向きで、29.3%が接種に後ろ向きでした。接種に後ろ向きの理由(複数回答)は、「ワクチンの副反応が心配だから」が65.4%、「ワクチンの効果に疑問があるから」が36.7%、「ワクチンの安全性・信頼性に不安があるから」が35.7%でした。

若者のワクチン接種、メリットとデメリットの考え方



(厚生労働省新型コロナワクチンQ&A)